

令和4年度卒業式・修了式「お祝いの言葉」について

報告内容

令和4年度の区立小・中学校、幼稚園における卒業式及び修了式の「お祝いの言葉」について報告します。

報告事項（別紙のとおり）

- 1 令和4年度 幼稚園修了式「お祝いの言葉」
- 2 令和4年度 小学校卒業式「お祝いの言葉」
- 3 令和4年度 中学校卒業式「お祝いの言葉」

令和四年度 幼稚園修了式 お祝いの言葉

〇〇組の皆さん、幼稚園修了、おめでとうございます。

先ほど、園長先生から、名前を呼ばれて、修了証書を受け取られた皆さん一人ひとりの姿はとても立派でした。園長先生のお話を聞くときも、姿勢よくしっかりと聞くことができました。今までの幼稚園での生活を通して、皆さんがお兄さんお姉さんに成長したことが伝わってきます。

皆さん、〇〇幼稚園で楽しい思い出がたくさんできましたか。

皆さんは、毎朝、おうちの人と手をつなぎ、「おはようございます。」と元気にあいさつをして幼稚園に通いました。そして、おうちの方が作ってくれたお弁当もおいしかったですね。おうちの人に「ありがとう。」という気持ちを忘れないでくださいね。

入園してからの幼稚園生活では、毎日、手を洗うことや、マスクを着けることを頑張りました。片付けや当番の仕事など、自分のことは自分でできるようになり、なわとびやよま回しなど、少し難しいことにも繰り返し挑戦しました。友達と協力して取り組んだ劇や合奏、力いっぱい走った運動会など、心に残る思い出がたくさんできましたね。

これまでみなさんが、がんばってきた姿は、年下のお友達の良いお手本になりました。

四月から皆さんは、小学校一年生です。港区の小学校では、国語や算数のほか、英語の勉強も始まります。お昼には、おいしい給食を食べます。わくわくドキドキするような楽しいことが皆さんを待っています。そして、小学校にはたくさん新しいお友達がいいます。お友達とたくさん遊び、たくさん勉強して、立派な一年生になってください。

さて、保護者の皆様、本日はお子様の幼稚園修了、おめでとうございます。これまで愛情を注いで、育ててこられたお子様の晴れの姿に、胸を熱くされたことと思います。

特に、入園して以降、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のために、園内生活や行事の実施方法の変更等にご理解、ご協力いただき、感謝申し上げます。また、御家庭においても様々な感染予防にご協力いただき、ありがとうございます。また、御家庭においても様々な感染予防にご協力いただき、ありがとうございます。体験が何よりも大切な幼児期において、コロナ禍の制限された生活が続く中で、子どもたちが心豊かで健やかに成長されてきたことは、ご家庭の愛情はもろろんのこと、PTA並びに地域の皆様の温かいご理解とご支援、ご協力のたまものです。心から御礼申し上げます。

結びに、〇〇園長先生をはじめ教職員の方々には感謝を申し上げますとともに、本日、晴れて幼稚園を修了した園児の皆さんの健やかな成長を祈念しまして、お祝いの言葉とさせていただきます。

令和五年三月十六日

港区長 武井 雅昭
港区教育委員会

卒業生の皆さん、卒業おめでとうございます。本日ここに六年間の小学校全課程を修了され、晴れて卒業の日を迎えられましたことを、心からお慶び申し上げます。

保護者の皆様、お子様の卒業、誠にめでたいことです。大きく成長されたお子様の姿を、覧になり、喜ぶもひとしおのことと思います。

卒業生の皆さんは、校長先生から小学校全課程を修了した証である卒業証書を受け取りました。皆さんの清々（すがすが）しい表情は卒業の日を迎えた喜びと、これからの中学校生活への大きな期待に満ちあふれており、その堂々とした姿は頼もしいかぎりです。

ここで、新たな生活に向かって羽ばたく卒業生の皆さんに、港区並びに港区教育委員会から、お祝いの言葉を贈ります。昨年、カタールで開催されたサッカーワールドカップで各国の代表選手が見せた素晴らしい戦いは、世界中を興奮と感動で包み込みました。試合後の選手同士が互いを称え合う場面や、自国でなくとも懸命に応援をするサポーターの姿から、国境や民族を越えた国際平和を感じた方も多いのではないのでしょうか。

私たちの住むこの港区にも、国際平和を色濃く感じることのできるものがあることを皆さんは知っていますか。それは、「平和の灯（ひ）」と「子ども平和塔」の二つです。

港区は区民の真の平和を求めるため、一九八五年（昭和六十年）八月二五日に港区平和都市宣言を行いました。そして、宣言後二十年の節目である二〇〇五年（平成十七年）八月十五日に、「平和の灯（ひ）」を設置し、港区から恒久の平和を発信し続けています。

もう一つは「子ども平和塔」です。この「子ども平和塔」は、田澤 鏝（りょうじ）さんという方の発案により建設されました。田澤さんは、戦争で二人の子どもを失い、世の中が平和であることを求めるとともに、「世界平和の理念を子どもたちの心に固く刻みたい」と考えました。

現在、港区は、高層ビルが立ち並び、商業施設や各国大使館が建てられるなど世界に誇ることができる都市です。しかし、第二次世界大戦後、港区は焼け野原となり、当時の人々は生活していくことが苦しい状況でした。

そのような中、田澤さんの呼びかけにより、「子ども平和塔」の建設が始められました。

当初は、子どもたちが古新聞や古雑誌を持ち寄ってお金を替え、そのお金を建設資金とすることから始まりました。食べることもままならない中で、自分たちにてきむことを考え、自主的に活動しましたが、わずかな資金しか集まりませんでした。しかし、一九五二年（昭和二十九年）、日本において児童憲章が制定されたことで、広く「児童を社会の一員として重んじるべきだ」という機運が高まり、「子どもの手による、子ども平和塔建設資金運動」が全国の小・中学校の児童会・生徒会に広まりました。

数人の子どもたちから始まった活動は次第に大きくなりとなり、最後には全国一〇五二の学校が平和を願う思いに賛同し、一九五四年（昭和二十二年）、七年の歳月を経て「子ども平和塔」は完成したのです。

完成した「子ども平和塔」には、恒久の平和を祈り、明るい未来を作っていきたいという、当時の子どもたちの願いが、次のように刻まれています。「戦争の痛手をきびしくうけた、わたくしたち日本の少年少女は、人類永遠の平和をねがう、やむにやまれぬ心のしるしとして、ながいあいだかかってこの塔をたてました。」

完成から六九年経った今でも、子ども平和塔は、恒久の平和のシンボルとして多くの人に親しまれています。皆さんには、今後も港区から「世界が平和であり続けることを願う心」を発信し、これからの新しい国際社会を築いてほしいと思います。

卒業生の皆さんは、この三年間、臨時休業期間や分散登校、次々と中止となる教育活動、新しい生活様式での学校生活など、前例のない困難を経験しました。通常の学校生活に戻りつつある今年度においても、変更した学校行事等が多く、最上級生として苦労したことがあったのではないのでしょうか。それでも、小学校六年間で様々な人々との出会いを通じて、切磋琢磨することの大切さや、他者ことながることの大切さを学んできたことと思います。その学びを糧として、中学校でも、相手を大切にし、互いに助け合って、平和で明るい有意義な学校生活を送ってほしいと思います。また、自分の将来について夢や希望をもち、可能性に満ちた広く大きな世界へと進んでください。

結びに、〇〇校長先生をはじめ教職員の方々と、本校の教育活動に惜しみない協力とご理解を賜りましたPTA並びに地域の皆様に心より感謝を申し上げますとともに、〇〇名の卒業生の皆さんの健やかな成長と充実した中学校生活を送れることを心からお祈りし、お祝いの言葉といたします。

令和五年三月二十三日

令和四年度 中学校卒業式 お祝いの言葉

卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。本日ここに義務教育九年間の全課程を修了され、晴れて卒業の日を迎えられましたことを、心からお慶び申し上げます。

保護者の皆様、お子様のご卒業、誠におめでとうございます。立派に成長されたお子様の姿をご覧になり、喜びもひとしおのことと思います。

卒業生の皆さんは、校長先生から中学校全課程を修了した証である卒業証書を受け取りました。皆さんの清々（すがすが）しい表情は卒業の日を迎えた喜びと、これからの人生に対する大きな期待に満ちあふれており、その堂々とした姿は頼もしいかぎりです。

ここで、新たな進路に向かって羽ばたく卒業生の皆さんに、港区並びに港区教育委員会から、お祝いの言葉を贈ります。

昨年は、鉄道開業百五十周年という節目の年であり、港区・新橋を中心に全国で催し物が開催されました。また、令和三年に国史跡（くにしせき）に追加指定された「高輪築堤跡」があらためて注目を浴びた一年でした。高輪築堤跡に限らず、歴史情緒あふれる港区には、価値ある建造物が多く存在しています。私たちがよく目にする「東京タワー」も、その一つです。

皆さんは、なぜ東京タワーが建設されたか知っていますか。東京タワーは、当時「世界一高い建造物」として、昭和三十三年、今から六十年以上に前に建設された電波塔です。建設前は、各テレビ局が自前の電波塔を建ててテレビの電波を送っていましたが、高い電波塔ではないため電波をとばせる範囲が限られていました。この課題を解決するべく、複数の電波塔を一本化し、広い範囲に電波を送るために建設されたのが、東京タワーでした。

そんな「世界一高い建造物」を建設したのは、電波を広く送ることで人々の生活を豊かにしたい、という強い思いをもった、多くの設計者や職人の方々でした。東京タワーの建設にあたっては、建設に耐えうる土地の選定、東京湾から吹いてくる強風や関東大震災級の地震に耐えうる設計、狭い足場や高所での手作業による組み立てなど、困難の連続でした。そのような、大きな困難と対峙した時も、建設に関わった人々は、惜しめない努力と協力により克服し、着工後わずか約一年半という短い期間で東京タワーを完成させることができたのです。完成後は、東京を中心とした関東圏にテレビの電波が広く送られ、テレビが急速に普及しました。その間、使用された設計図は一万枚、工事に関わった職人は延べ二十万人を越えたといわれています。

戦後の焼け野原から立ち直りつつあった日本が目指した、世界一の高さ三百三十三メートル。工事の鉄を打つ音が空に響きわたり、鉄塔が日増しに立ち昇っていくその姿は、日本国民を大いに勇気づけるものであったに違いありません。「世界一高い建造物」を、敗戦後間もない日本が建設したという事実は、日本の技術力が世界水準であることを示すとともに、高度経済成長期を迎えていた日本の成長を加速させることとなりました。東京タワーは、人々の生活を豊かにするだけではなく、戦後復興のシンボルの存在として、日本を支える建造物となったのです。

現在は、高層ビルの増加の影響により電波が届きにくくなったため、日本一高い電波塔としての役目を東京スカイツリーに引き継いでいますが、東京タワーは港区のシンボルの存在として、変わらず愛されています。多くの人々の思いを乗せて建造されたその姿は、夢や希望を見失わず、志を同じくする仲間と情熱をもって取り組むことができれば、困難を克服していけることを私たちに教えてくれています。

卒業生の皆さんの中学校生活には、入学式後の臨時休業期間や分散登校、次々と中止となる教育活動、新しい生活様式での学校生活など、前例のない困難が待ち受けていました。通常の学校生活に戻りつつある今年度においても、初めて経験する学校行事等が多く、最上級生として苦労したことがあったのではないのでしょうか。そんな困難に直面しても乗り越えてこられたのは、この学校で出会った先生方や仲間がいたからだと思います。今後も、皆さんが抱えている夢や希望を叶えるにあたり、様々な課題や困難が待ち受けていることでしょう。しかし、課題や困難に直面しても、夢や希望を追い続け、仲間と協力してその解決に邁進してください。これからの時代を担い、つくっていくのは、皆さんです。情熱を絶やさずに夢に向かい、自らの将来を切り拓き、東京タワーがあるこの港区から、広く大きな世界へと羽ばたいてください。

結びに、〇〇校長先生をはじめ教職員の方々と、本校の教育活動に惜しみないご協力とご理解を賜りましたPTA並びに地域の皆様にご心より感謝を申し上げますとともに、〇〇名の卒業生の皆さんの健やかな成長と今後も充実した生活が送れることを心からお祈りし、お祝いの言葉といたします。

令和五年三月十七日

港区長 武井 雅昭
港区教育委員会